知新雜感

靜岡 大石辰次

我が日本の素人天文家は申すまでもなく專門家の間にまで其の存在を知られて居る靜岡縣島田町の知新(ちしん)觀象臺は全國千何百の素人天文家の見たいと慾望を持つものゝ一つである．島田町は現に東海道線の一要驛であり，過去は大井川の川越，川留めで幾多のロマンスを生んだ宿である．朝顏日記の朝顏の松も大井川の外堤防に高く立ち歷史の進行を物語つて居る．又大井川1粁の長い鐵橋は近年完成せるも其前には省線專用の橋のみであつた．今でも今上陛下の行幸記念日には古風其の儘のチョン髷姿に袴の武士が蓮臺越川越の行事があつて，遠近より見物人集り，仲々の人氣である．當日は川原に禁札奉行所の高札等の實物を掲げ觀覽に供して見るものは時勢の移りに驚くのである．天文に趣味ある者は世紀の足，岡蒸氣に乘り此の國道の一驛を通る毎に斯る歷史はさて措いて，アマチュアの重鎭清水眞一氏の存在に必ずや思ひを向ける事である．

知新觀象臺は町內近隣では知新と呼ばれ，藥種，寫眞材料商を經營され町內屈指の素封家である．當主清水氏は大正末期より天文に興味を持たれるを始めとして現在の設備を完成せられたのである．其前には氏は町內の有力者と蘭契會を組織され每夏，全國著名の敎授，博士を招かれて，夏期講習會を開かれ，郡內の知識階級の開發に盡力を惜まれず，其の他の學術的方面の努力は職業的輩の及ばざる所である．氏の業蹟は現在の天文に限らず顯著なるものである．氏は熱の人，努力の人，情の人である．

氏が天文への第一步は故新城新藏博士の奬めによると申されて居る．今に至るまで約十數年，獨創的各種設備の完結に力を盡され，特に赤道儀運轉モータは全國に其の例を見ざると思はれる．氏は凡ゆる方面に愼重なる考察を以てのぞまれ，先頃私が訪れたる折は考案されたる廻轉式サングラスを示された．

觀象臺は同家の裏屋根西側に設けられ地下よりコンクリートにて固められ，其の高さ地上より約3間弱．ドームは蒲鉾型全體スライヂング式にて南北に移動して觀測時はドームは赤道儀の北側に移る(同家は東海道の南側にあり)．周

圍は鐵柵，厚きシートにて圍まれ强風の防止，不要地上燈をさへぎられ觀望にも又至便である．町家は四方に密集し居るも防障地物を良く避けられ，晴夜は5等星以上を眼視易々にて四方の展望良きを加ふれば純田舍の私の觀望地より上位である．南方は省線を越し大井川を渉り天下の名茶園牧の原の高原を東西に眺める．氏曰く「時々カノープスが牧の原にすれすれに通ります」と．同臺の南天觀測は恐らく東京，京都以上であらう．

天界の現象は何時も條件が良いとは限らない．先頃の下保彗星の撮影には町内のアンテナ線の寫るまで無理をされ，氏は斯る苦心をしみじみ語られた事もある．氏は此の地上の惡條件と苦戰しつゝ斯學界に幾多の材料を提供せられて居るのである．

同臺の設備に就て一言しよう．4吋，F 12，赤道儀の主臺の兩側に3吋級同型寫眞レンズ2個を連裝されてある．接眼部には2吋對物レンズに40粍ケルナーアイピースを付けた極めて廣視野ファインダーあり，カメラ暗箱取付樣式あり，赤道儀の脚部は鐵製ヤグラ式3脚柱に2町內鍛治屋の作りしものなる由．極軸下の垂直柱は僅か北に傾斜して平均をとられ，氏の型式を脫せる考案は伺はれて居る．同型赤道儀には愼重なる全量を氏は時々とられる．初代の天文家連が粗末な器械で多くの發見を斷行された事實は其の反面に並ならぬ努力と忍耐を連想せしめるが如く，氏が不滿の器を愛用して偉大なる結果を生んだのは大なる訓戒と申される．皇軍が聖戰に勝利するのは矢張精神である．數萬の費用を投ぜる設備も使用者に此の精神が無ければ紙製のテリスコープと大差ない譯である．口徑に捕はる一素人が書籍にて敎はりつゝも心にぴつたり來ぬ．然し此の一事を見ても大いに發奮す可きである．生命の無い職業家のした所に感ずる樣な仕事はそう幾度も社會に見えるものではない．氏は私の最近の金星である．今まで多くの苦戰談を伺つて居るが其の度に私は血湧き肉躍るの感を受け自分に鞭韃した．

去る年當地に大流星があり．其の研究資料を集めるのに，花山の柴田理學士と協力され，郡內郡外は勿論縣外までも手を延ばされて居る．其の結果は天界發表により讀者に報ぜられた．彗星，新星，小遊星，黑點の觀測には心血をそゝがれ，ダニエルの搜索談に到つては天文三昧境の極致である．（第283頁へ）

平均氣溫が23°C，まことに住み良い所だ．

遊びに來るなら此れからぼつぼつ秋がよい．早曉の觀測をすませて，阿引の濱の河豚釣の味は，都人には分るまい．季節にも依るが何でも釣れる．小鯛，ちぬ鯛，キスゴ，こち，烏賊，さより，はぜ，でべら．まだある．かれい，いつだこ．だが何と云つても河豚釣が最も面白く，年中大抵釣れてゐる．何？，河豚を食つたら死ぬ？，冗談じやない．自分が斯うして手料理で，ピンピンしてゐるのだから大丈夫!! 河豚は煮附てもよく，味噌汁によく，チリ鍋なら更によく，小河豚の刺身も仲々捨難いものだ．所謂ふぐのあばれ食ひで，琵琶湖の鮒とは比較にならぬ．

勞働もする，晝は終日暗室で，ピ1カ1と天秤と檢溫計と硝子板と取りくんで，2，3度は木炭ガスの中毒で卒倒もした．そうして出來た○○が乾燥する迄に，飯たき，木割り，洗濯，山の下まで水汲み，兎の世話もせねばならぬ，仲々忙がしい．鶯も居るそうだが，こいつは聞えぬ．訛りは少しもないとの事．山兎も相當に居る．褐色の大きな奴が，夜中に觀測所の構内迄襲擊して來て，お蔭で野菜は目茶目茶にされ，こいつが惱みの種である．一番の苦手は水汲みで，最初の頃は1回降りたらヘトヘトになり，何も出來ない．字も書けない，指先が震へる，息切れがする，心臟は弱い方らしい．昨今はもう大分馴れて，1時間半毎に4回降りて，毎日入浴もしてゐる．山住ひで毎日の入浴は少し贅澤な方だらう．(S. K 生)

＊　　＊　　＊

(第279頁より)

氏は再度グリッグ・スケラップ彗星の搜索はアメリカに數日先んぜられたるも獨立に發見されたるものである．

下保彗星，岡林新星，五味彗星などは如何にも貴重なる撮影を殘された事である．天文月報は斯る斷片をしばしば報告して居る．

榮譽ある發見，研究，努力を遂行せられたる氏は自らに其の榮を歸せず，青年の意氣と理想に精進されつゝある．